

# 事故防止に向けた安全対策

## 【 カヌー 】

### 1 競技特性

- (1) 実技指導書等を参考に、競技の特性や特徴を記載する
- (2) 競技特性に応じた事故の特徴を記載する
- (3) 過去の重大事故例等を記載する

### 2 想定される事故事例と予防策

#### (1) 主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・パドルがぶつかり怪我をする	・挫傷、打撲	・練習前にパドルの破損を確認する。また、使用時には周囲の確認を必ず行う。
・トレーニング器具を身体に落とす	・打撲、骨折	・器具の安全性を確認する。 ・器具の正しい使い方を理解させる。
・艇移動の際に脚を滑らせる	・打撲、骨折	・重い重量や一人では危険なトレーニングは必ず補助を付けて実施する。
・転覆の際のライフジャケット不備による事故	・溺れる、低体温症	・足場状況を確認。滑りやすい足場は複数で艇を運ぶ。 ・ライフジャケットの浮力確認、練習前のライフジャケットの着用確認の徹底。
・艇の破損による浸水	・転覆、溺れる、低体温症	・練習前後に艇の破損を確認する。
・転覆の際の地面との接触による怪我	・擦り傷、打撲	・技術レベルの低い選手は岸側で漕がせる。
・艇を積んでいる艇架台が外れる	・落下による打撲、骨折	・安全な転覆方法の練習を行う。
・ガラス片や金属片等を踏み負傷	・切り傷、擦り傷	・固定箇所のゆるみ、錆等がないか定期的に確認する。 ・足場の安全確認、練習前に清掃を実施する。

#### (2) 主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・艇同士の衝突による怪我	・打撲、挫傷、骨折	・優先艇の確認、距離をとって漕ぐように指導。
・練習中の転倒	・打撲、挫傷、骨折、捻挫	・準備運動をしっかりと行う。転倒原因になりそうなものに注意をして移動するなどの確認を行う。
・艇を運ぶ際に自転車、歩行者、駐車中の車に衝突	・打撲、挫傷、骨折、器物損傷	・周囲の安全確認を徹底する。
・練習中体調不良による転覆	・溺れる、意識障害	・練習前の健康観察の実施。
・筋力トレーニング中に重りを身体に落とす	・打撲、骨折	・トレーニング中は補助をつける。
・トレーニング中に器具につまずき怪我をする。	・打撲、骨折	・整理整頓を行う。
・走る練習の際の下半身の怪我	・捻挫、足首・膝損傷	・練習前の準備運動、練習後のストレッチをしっかりと実施する。

#### (3) 主として【環境条件等】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・熱中症	・熱射病、熱痙攣	・水分、塩分補給を定期的に実施。 ・適度な服装で練習を行っているか確認。
・落雷	・重症以上	・帽子、サングラスの着用の確認
・強風	・転覆の際の打撲、挫傷	・トレーニングに合わせた定期的な休息時間の導入。 ・天候情報の事前収集、観天望気、常に周囲の天候状況を確認する。
・低温（気温・水温）	・低体温症	・水面状況から練習の可否を判断する。 ・ライフジャケットの着用
・緊急警報発令時の対応		・救助艇を準備する。 ・すぐに身体を温められる準備をしておく。 ・救助体制を整備しておく。 ・情報収集や関係者および保護者との連絡方法について準備しておく。